

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のフロア会議や日々の申し送り、ミーティングの際など、職員全体で理念に基づいたケアが行われているか話し合っている。また採用者の職員研修において、理念について学ぶ機会を持ち、意識付けを行っている。	法人の理念「その人らしく、いきいきと」を念頭に、利用者の生活歴や毎日の支援の中から、利用者の意向と要望を踏まえ実践に繋げている。理念にそぐわない行動が職員に見られた場合には、その場で注意を促す場合もあるが、気づきを持ちモチベーションを上げられるような助言に心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の三九郎、夏祭り、文化祭へ参加したり常会で行われているえんがわ亭にも参加し、地域の方々と交流する機会を作っている。塩尻、松本の市役所に千羽鶴を届けた。常会に加入し、回覧板を回していただいている。雑巾作りを日頃から行い、幼稚園・保育園・小学校・中学校へ寄贈のため訪問した。その雑巾を持ち小学生がお掃除交流に来てくれた。地域の方々からお米や野菜・果物・タオルなどいただいている。散歩や買い物に出掛け、地域の方々と挨拶を交わしたりしている。夏休みには駐車場で小学生のラジオ体操が行われている。	自治会費を納め回覧板が回ってくる。地域とおつき合いは多岐に渡り、地元地区の文化祭には刺し子・塗り絵等の作品を出品し、利用者が展示された公民館に職員と出かけている。裁縫の得意な利用者も多く、雑巾を近隣の保育園・幼稚園・小学校・中学校などに毎年寄付している。手縫いの雑巾は丈夫で手になじみ、乾きやすいことから重宝がられている。中学生の職場体験は2校から4名の生徒を受け入れ、お茶入れ、食器洗い、散歩等を体験していただいている。また、複合施設近くの障がい者就労支援事業所にホームの清掃業務を委託しており、地域福祉事業の相互理解と発展にも寄与している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学校の職場体験学習、小学校の総合学習の交流、高校・短期大学の実習生やボランティア等の受け入れを積極的に行っている。施設長は塩尻市医療介護連携推進協議会のいきいき手帳委員会委員長を行っている。また、地域の方々を招いて「命の終い方」勉強会を定期的に開催したり、こまくさ祭りで地域の方々に向け講演会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催している。議題に合わせ地域の方々と防災や防犯、事故また地域の高齢者に向けたサービスなど様々な意見交換を行い、サービスの向上に努めている。前年度同様の出席者に加え、新たに移動バン屋、えんがわ亭、消防防災設備会社、市の歯科衛生士、給食委託会社の方々をお呼びし行った。	偶数月に開催しており、多方面から運営推進会議に参加をしていただいている。参加していただいている近くの事業所や関連機関の代表者を月別に変えており、ホームの運営上欠かせない近くの調剤薬局の方や複合施設全体で月末に喫茶を開いている店の方等に参加をお願いしている。より幅広い視点から意見をいただく機会を設け、ホームや認知症について理解をいただけるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が2～3か月に一度来訪し、利用者や職員と交流を図っている。運営推進会議に出席していただき、グループホームの実情やケアの取り組み等を伝えている。認定更新や変更申請の機会に市町村担当者と連携を深めている。	運営推進会議を通して市関係職員との連携はスムーズに取れている。法人として市から北部地域包括支援センターを委託されており、相談や意見交換をしている。介護認定の更新手続きはホームで行い、市の調査には利用者家族が立ち会うこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開いている。バルコニーやベランダに出て気分転換を図ったり、エレベーターで一階へ下り、新聞を取りに行く入居者もいる。フロア会議やミーティングの際に身体拘束につながるケアを行っていないか、ケアの振り返りを行っている。	眺めと日当たりの良い建物環境を活かし、ベランダに出て枕を干したり歩いたり、思い思いに日常を楽しまれている。拘束をしないケアがホームの方針で日中玄関の施錠はしていない。新人研修の際やフロア会議において、スピーチロックなどについても話し合いを行っている。	

グループホームこまき野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新人、中途採用者の職員研修において、高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を行っている。虐待につながるようなケアが行われていないか、フロア会議やミーティングなどで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新人、中途採用者の職員研修において、権利擁護に関する勉強会を行った。成年後見人制度のチラシを玄関に置き、家族等に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用料金や医療連携体制、グループホームでの生活や看取りなどについて詳しく説明を行い、利用者や家族の不安や疑問等を解消できるように努め、同意を得るようにしている。介護報酬の改定や物価などの変動により利用料金が増加する場合は納得を得られるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には、現状報告をするとともに、期待するケアの方向性や気になる事など、家族の思いを聞く機会を作り、忌憚なく発言できる関係作りを努めている。運営推進会議や家族会などで利用者、家族の意見や要望を伺う機会を設け、そこで出された意見をフロア会議などで話し合い、反映させている。	全利用者が、自身の要望を表出することができる。家族には気軽にホームへ来訪していただいているが、長い期間訪問がない家族には相談事や預かり金なくなった時などに来訪をお願いし、その折に家族から直接要望を聞きホームの運営に活かしている。家族会を2年に1回開催し、年間活動報告やスライド上映を行い、意見、要望等を伺い運営に反映している。また、複合施設全体のごまき祭りや利用者の誕生日会に家族を招待し楽しんでいただき、誕生日当日には手作りケーキでお祝いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議やミーティングの中で意見や要望、職員の気づきやアイデアを聞くようにし、日頃からコミュニケーションを図るように心掛けている。個別に職員に声を掛け、話す機会を作り、業務上の相談等に対応している。	利用者の現状報告・ケアプラン、現在の困りごと、委員会の報告、行事予定の確認等について話し合い、フロア会議として行っている。ホーム長は毎日の申し送り時も含め、職員が意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに心掛けている。年1回、業務についての自己評価を行い、ホーム長を通し理事長に報告し職員のキャリアアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に来て、入居者と一緒に過ごしたり、個別に職員の業務や悩みを把握するように努めている。年に1回自己評価を行い、職員が向上心を持って働けるように働きかけている。職員の資格取得へ向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	なるべく多くの職員が外部研修を受講できるように情報を収集し発信している。また参加した研修報告は法人リーダー会議で伝達講習し、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。認知症介護実践リーダー研修、アセッサー講習し資格認定された。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や他施設実習を通して、他事業所と交流する機会を持ち、質の向上に励んでいる。法人内の別のグループホーム同士でも、リーダー会議や運営推進会議を通して情報交換を行っている。		

グループホームこまき野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時は、利用者・家族と事前面談を行い、本人の心身の状態や生活環境を把握する様に努め、本人の希望や不安を理解し、安心して頂けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の現在の困り事や希望などを伺い、ニーズを把握するように努めている。その上で家族には入居前にグループホームの様子を見ていただき、入居後グループホームとしてどのような対応ができるのか事前に話し合いをしている。また今までの家族の苦労や不安、要望を聞き、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の相談時、本人や家族の状況をよく聞き、グループホームとして、どのような支援ができるか考え、必要に応じてケアマネージャーや看護師と連携し、対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、一緒に暮らす仲間として、喜びや楽しみ、不安や哀しみ、こだわりなどを共有し、関係作りを努めている。漬物、干し柿作り、まゆ玉作り、年中行事、裁縫、料理など教えていただく機会が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談し支援について共に考えている。誕生日会、こまき祭りに参加していただき家族が本人や他の利用者と関われる場面を作っている。ご家族の方が誕生日会に参加している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	亡くなられた夫の月命日に出掛けている。友人、知人、兄弟、姉妹、親戚等の来訪電話の取次ぎなど馴染みの関係が継続できる様に支援している。デイ、ショートの利用者も訪ねてくる。また区内で行われている「えんがわ亭」に参加し、馴染みの方との会話を楽しんでいる。	友人、知人の来訪を受ける利用者もあり、居室や共用スペースのソファで話をされている。3時のおやつの際に訪問が重なると、みなさんと一緒におやつを食べていただいている。手芸用品や大人の塗り絵などの買い物に職員と出かけたり、ホーム利用後、親しくなった利用者同士で畳の間やベンチで洗濯物をたたみながら話をすることもあるという。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談にのったり、皆で楽しく過ごせる場面作りを行い、利用者が孤立せず利用者同士の関係が上手くいくように職員が調整役となって支援している。		

グループホームこまき野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所されても、面会に行く機会を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、表情や言動などから本人の思いや希望、意向を汲み取るように努めている。把握が困難な場合は、家族や入居前に利用していた事業所から情報を得るなどを教えてもらえるように連携を図っている。計画作成担当者は利用者家族から一人ひとりの思い、意思を把握し介護計画に活かしている。	利用者全員が自らの思いを表出できるが、その思いをくみ取り、意向を把握し無理強いすることなく職員は接している。日々の暮らしの中で意向を上手に伝えられない時もあるが、職員は何らかの意思表示を見逃さないようにしそれに対応している。よく表現する言葉や仕草などは介護記録に記録しケアにも活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しつつ、利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、個性や価値観、利用の経過等を本人、家族から詳しく話をお聞きし、情報を得るようにしている。また他事業所利用時の様子などを教えてもらえるように連携を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや暮らし方の把握に努めている。その時々々の健康状態や気持ちの変化を見極めるようにしている。日々の支援からその方が今できることに注目し、一人ひとりの有する力や、潜在力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で思いや要望を聞き、介護計画に反映するようにしている。またフロア会議や日々のミーティングの中でモニタリングやカンファレンスを行っている。状態が変化した場合は検討し変更できるように努めている。	居室担当者が決まっており、ケアプランを計画作成担当者と共に立てている。基本的に3ヶ月に1度見直しを行い、状態に変化が見られた時には随時の見直しをかける。家族とは来訪時や電話等で常に話し、意向や希望をお聞きしケアの方向性について話し合い、プランに反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事、水分、排泄等身体状況や日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード、職員の気づき等を記録している。出勤時に記録を確認し、情報を共有している。個別の記録をもとに介護計画の評価、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院の付き添いや送迎、個別的な買い物支援など必要な支援を柔軟に対応し個々の満足度を高めるように努力している。入院した場合、本人家族の状況に応じて、早期退院のための話し合いや協力を医療機関と行っている。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らし続けられるよう、警察、消防、学校、民生委員、スーパー、薬局、地域住民に運営推進会議に出席していただき意見交換、協力関係を築いている。えんがわ亭、区の夏祭り、文化祭、三九郎などへ参加したり、こまくさ祭りなどの行事の際に、ボランティアの協力を得ている。訪問理美容サービスを本人家族の希望により利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、施設併設クリニックがかかりつけ医となっている。必要時は看護師に連絡して診てもらう。眼科や歯科の単科へは家族同伴が基本だが、不可能な時は職員が同伴している。また、歯科医の往診を適宜依頼している。	医療体制は盤石で、安心して暮らせるように支援している。看護師の来訪も日曜日以外毎日あり、夜間・休日のオンコール体制も整っている。歯科に関しては近隣に2軒の医院があり、協力機関として必要な時に往診を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常を見逃さないように努めている。体調や表情の変化などで気付いたことがあれば看護師に連絡し、24時間いつでも相談できる体制が整っており、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	1名入院され、利用者の情報を医療機関に提供し、職員も見舞いに伺い情報交換を行うとともに、ご家族とも早期退院に向け、相談や話し合いを行い、退院された。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合、早い段階から医師と家族の面談の機会を設け、アドバンス・ケア・プランニング(4つのお願い)を活用したり、本人、家族の意向を伺い最期の時をその人らしく過ごしていただけるよう、医師、看護師、介護員で話し合いを行い、対応している。	終末期の支援については、そのような場面に直面した場合に職員が話し合いを持ち一丸となり、医師、看護師の指導の下、家族等との連携を取り、本人本位の支援に努めている。ホームで最期を迎えられた時には、利用者と職員全員でお見送りをしているという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修において急変や事故発生時の対応について研修している。またフロア会議や、ミーティングの時、急変や事故の対応を検討し、現場に生かしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定避難訓練を年二回行っている。近隣住民、消防署と協力して消火訓練を行った。	在宅複合施設全体で年1回の避難訓練を行い、当ホームでは夜間想定避難訓練を2回行っている。職員による消火訓練、通報訓練なども実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、人生の先輩として尊敬の姿勢をもって接している。さりげないケア、慣れ合いとならないケアを心掛けている。その方に適した自己決定しやすい声掛けや環境に努めている。職員への個人指導やフロア会議などの場で利用者の尊厳やプライバシー保護の理解の向上に努めている。	お名前呼び方は、基本は「さん」を付けて呼ばれている。利用者に接する時に職員は一人ひとりの尊厳を守ることを念頭に置き言葉を遣い、感謝の気持ちを忘れずに支援している。居室訪問の際もドアノックや声掛けで入室し細かな気配りしている。新人研修の時に周知徹底し、打ち合わせや申し送り時にもプライバシーについて話し合い利用者本位のケアに徹している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせて声を掛け、答えやすく選びやすい支援をしている。些細なことでもご自分で決める場面作りをしている。表現が困難な方に対しては、表情や行動などから本人の意向を汲み取り、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、その方のペースを大切に、その日その時の気持ちを尊重し、その人らしい生活が送れるよう支援している。また、本人の言語化されないサインを読み取り、例えば個別に休息場面を作るなどの対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えはその方のお好きな服を選んでいただいている。その方の個性やなじんだ髪形や化粧、おしゃれを心掛けている。家族となじみの美容院へ出掛け、お気に入りのヘアスタイルにしている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から片付けまで出来る範囲で役割を持ち、職員と一緒に楽しみながら行っている。畑やバルコニーのプランターで育てた野菜と一緒に収穫し煮物や漬物を調理したり、利用者なじみの料理やお好きなものを作り、個々の力を活かしながら楽しみ、季節を感じられるよう努めている。誕生日会では本人の希望のメニューを調理しお祝いしている。	ほとんどの利用者は自力で食事ができているが、全介助の方もいる。食事は、複合施設3階厨房で給食委託業者が副菜などを作りホームでも利用している。ご飯・味噌汁・おやつは利用者と一緒にホーム内で作り、食事を食べながら「今日の味噌汁は味がちょっと薄い」などと話が盛り上がり、楽しい食事の光景となっているという。また、白いご飯だけだと認識できない方もいて、ピンク色のでんぶを掛けることで食べ物と判断でき、自身で食事ができるように工夫がされている。キッチンコーナーには腰の高さに合わせ低い位置の小ぶりの流し台もあり、利用者の使い勝手もよく、使う姿が頻繁に見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を利用し、水分量、食事を把握している。一人ひとり個別の嗜好や食事形態をソフト食等にするなどして提供している。栄養士が訪問し、一緒に食事を楽しみながらアドバイスを受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた対応を行っている。特に就寝前の口腔ケアはその重要性を理解した上で確実に行っていただけるよう支援している。利用者によっては、ガーゼ等を使用し、口腔ケアを行っている。		

グループホームこまき野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のサインを察知し、自尊心に配慮しながらさりげなく支援している。排泄チェック表を活用し、尿意の無い方にも時間を見計らって誘導するなどトイレで排泄ができるよう支援している。本人の状態に合わせてパンツやパットの種類の検討を行い、ケアアドバイザーの方に困っていることなどを相談して解決している。法人でおむつ勉強会を行い、職員の代表が参加し伝達講習を行った。	布パンツ、リハビリパンツ、それぞれにパット併用の方と様々であるが、排泄表をこまめにつけている。中には自身で下剤を飲まれる利用者もいて、職員は排泄パターンを読み、自立の利用者にはトイレ利用後の状態や下着の汚れ具合で総合的に判断し健康状態の把握に努めている。おむつ等の消耗品は業者に見積りを出してもらい、安価に納入することで家族の負担にも配慮している。トイレの場所が分かるようにドアにはっきりと表示している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品などを取り入れ、排泄チェック表を活用しながら水分を多めに採って頂いたり、看護師と連携しながら本人に合った便秘薬を処方するなどの支援をしている。また、腸の動きを良くするために毎日の散歩や体操、階段昇り等、体を動かす場面を作ったり腹部マッサージや温電法を行い、自然排便につながるようになっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の入浴したい日、時間に合わせ入浴していただいている。これまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう、湯量や温度など本人の希望に合わせて入浴を楽しんでいただけるようにしている。季節のしようぶ湯やゆず湯を行ったり入浴剤も好みに合わせ選んでいただけるようにしている。最低週2日は入浴していただけるように努めている。入浴を拒む利用者に対しては言葉掛けや対応を工夫して入浴していただけるようにしている。	入浴は一部介助の方が多く、全介助や二人介助の方が数名ずついる。週2回の入浴を心掛けているが、拒否の強い方で2ヶ月拒まれた利用者がおり清拭対応に努めた。入浴時には肌の乾燥を防ぐため入浴剤を使い、香りや色を楽しんでいただいている。季節を感じるように、菖蒲やゆずを浮かべ、気分転換を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中散歩に出掛け日光を浴び、午後は体操などを行い、生活リズムを整え、夜間の安眠につなげられるように心掛けている。眠れない方には会話をしたり、温かい飲み物をお出しするなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に服薬ファイルを作成し全職員が把握できるようにしている。服薬時には薬の袋と本人を確認し、確実に内服できるようにしている。処方の変更があった場合は申し送りノートや個人記録に記録し、状態変化の観察に努めフロア会議にて薬に対する理解を深めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが役割を持ち、得意分野で力を発揮していただけるようお願いできそうな仕事を頼み、その都度、感謝の気持ちを伝えるようにしている。家事仕事、新聞たみ、刺し子、編み物、折鶴作りなどその方の経験や知恵を活かし協力しながら日々を過ごせよう支援している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の周囲や近所の公園などへの散歩は日課になっている。近所のスーパーなどへも積極的に外出している。初詣、お花見、薔薇園見学、葡萄狩り、紅葉狩りなどへも出掛け、肌で感ずる四季を大切にしている。回転寿司に行ったり、外出の帰りに喫茶店に寄ったりして日常性を確保している。	日常の散歩は少々の風の強さや寒暖の差には影響されず、毎日の日課として、平日は10:00頃からホーム周辺の散歩やホーム近くにある店に3時のおやつのお買い出し、個人の買い物などに職員と出掛けている。外出行事としての年間計画もあるが、天気の良い日や花の便りを聞いたときに出かけることもある。日当たりの良いベランダへの出入りが自由にでき、周りの景色を楽しむことが出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、個人の財布を持っている利用者もあり、外出の際、刺し子、糸などちょっとした買い物を楽しんでいる。施設でお金を管理している方には支払いを代行している事を伝えることで安心感を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で、本人が家族へ電話を掛けたり、家族からの電話を取り次いだり、プライバシーに配慮しながら個別に対応している。家族、知人、友人に年賀状を出している利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての馴染みの物、生活感や季節感のある物を配置し、家庭的な雰囲気作りに努めている。刺し子や塗り絵など作品を飾ったり、季節の花を飾るなどして、居心地の良い家庭的な雰囲気作りに努めている。	複合施設の4階にあるホームは眺めが素晴らしく、松本盆地や北アルプスを一望できる。また、屋上は利用者の気分転換や体操の場所にうってつけとなっている。ほとんどの居室は共用部分の食堂兼居間を囲むような配置となっており、キッチンコーナーもオープンな造りで見渡しが効く。利用者と職員の距離が近く、温かな雰囲気のあるホームになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、畳スペースには炬燵があり、利用者同士が話をしたり、横になったりできる場所になっている。廊下や屋上には椅子を置き、景色を眺めたり、一人で過ごせる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やテレビ、寝具など好みの物を自由に持ち込んでいただいている。家族の写真や鉢植えが飾られ、利用者一人ひとりの居心地の良い「自分の部屋」となるよう努めている。	日当たりの良い居室には洗面台と低床型ベット、エアコンが設置されており、四季を通して過ごしやすい環境になっている。それぞれの居室には家族の写真やタンス、洋服掛けなどが自宅から持ち込まれ、壁には手作り作品も飾られ、落ち着いた生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、トイレ表示、夜間のポータブルトイレなど安全に安心して暮らせるように環境整備に努めている。利用者の状態変化により混乱された場合、職員間で話し合い、利用者に合わせて環境作りに努めている。		